**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：**南北統一されたら…

**お名前：**堀内情香

(下記より本文をご記入ください)

南北統一…。一体どうすれば成し遂げられるのか、考えれば考えるほど分からない。

私が生まれる4ヵ月前、ベルリンの壁が崩壊し、生まれて７ヵ月後、ドイツは統一された。

つまり私は、分断されていた国が、その後再び統一されるという歴史的瞬間を見ていない。ドイツがかつて東西に分かれていたという事実は歴史の授業で学んだが、リアルタイムで見たわけではないため、感覚としては分断されていなくて当然であり、当時、報道を見た人が感じたであろう、驚きや、感動の記憶は存在しない。

ソ連崩壊もまた同じである。物心ついた時にはソ連は存在せず、ロシアという国になっていた。

それがいかにドラマチックで、奇跡的なことであったとしても私の感覚では単なる過去の出来事、世界史の教科書に書いてあった、その程度認識であり、それによって思い起こされる記憶や、感情はとくにない。

　それゆえに、北朝鮮と韓国の南北統一と言われても、実際どういう方法で、どういう流れになってそれが実現できるのか、感覚的にピンとこないのである。

そうなると、南北統一の為にできることは祈祷や精誠しかないのだろうか？私たち民間人ができることはないのだろうか？いくら総連・在日の人たちと仲良くし、板門店で祈祷をし、『統一の歌』を歌ったところで統一に繋がるのだろうか？ふと、そんなふうに考えてしまう。

すると「いや、一国の統一や崩壊なんてもはや人間がどうこうできる問題じゃないだろう。」心の奥でそんな声が聞こえた。

確かにそうかもしれない。旧約聖書に出てくるエリコ城の陥落、あれもヨシュアとイスラエルの人々が神に言われたことを守り、実践したことで城壁が崩れたという話だった。

南北統一は神様の計画であり、摂理である。だからどんな形式で統一されるかは分からないけれども、神様の計画なのだから、私たちは南北統一はなされると信じることから始めなければならない。「南北統一は実現する」それが世界中の共通認識となれば実際に時が動いた時も、スムーズに事が運ぶのではないだろうか？

その共通認識をどうやって広めていくのか、それがこれからの活動のテーマとなっていくだろう。

もっと言えば、南北統一後の世界を想像してみると、より楽しくなり「南北統一」という言葉にリアリティが出てくるかもしれない。

例えば、私が統一後にやってみたいことは「平壌冷麺」を食べに行くことである。

私は韓国料理が好きで、夏になると少しお高い韓国の冷麺(インスタント)を買って自宅で作る。自分で作ったものも美味しいが、やはり実際に韓国で食べた冷麺にはかなわない。つるつるした麺にスッキリした透明なスープ。シャーベット状になったスープからはシャリシャリと音がして「夏」を感じさせる。上にのっている具は大根でもいいけれど梨だったら、なおさら嬉しい。そういえば昔は5000ウォンでカルビと冷麺がセットで食べられるお店があったが今もあるのだろうか。そんな思い出を語れるほど冷麺好きな私であるが、一つ気になることがある。それは「平壌冷麺」という存在だ。

私たちが冷麺と言われてすぐに思いつく、冷たいスープの冷麺は韓国では「물냉면(ムルネンミョン)」という。直訳すると「水冷麺」という意味になる。

また、韓国ではコチュジャンベースのたれを絡めて食べる汁なし冷麺「비빔냉면(ビビンネンミョン)」も人気である。日本語にすると「混ぜ冷麺」になるだろうか。

平壌冷麺と聞いて想像するのはムルネンミョン(水冷麺)の方である。

韓国で平壌冷麵と看板が掲げてあったら、そこは多分冷麺専門。こだわり抜いた麺とスープのハーモニーが売り。そんなイメージだ。

調べてみると平壌冷麵は、平壌地方でもともと食べられてきたものが、朝鮮戦争(1950～1953)のときに戦火を逃れて北部から避難してきた人々によって韓国にもたらされ、たちまち韓国内に広がったものらしい。

ソウルで食べる平壌冷麵ももちろん美味しいが、いつか本場の平壌冷麺を食べてみたい。

しかし南北統一前の2024年現在、平壌冷麵を平壌で食べることは簡単なことではない。一般人にはほぼ不可能である。

韓国はよくお店に「元祖OO」と名前を付けるが、元祖が多すぎて本物の元祖は埋もれてしまっている。私はいつか平壌に行って元祖の元祖を食べたい。例えそれが思っていたのと違う味でもいい。

それを実現するためには…そう南北統一である。南北統一が必須になってくる。南北統一なくして私が平壌で平壌冷麺を食す日はまず、訪れまい。

そう考えると、南北統一というものができるかどうかわからない曖昧なものではなく、必ず成し遂げなければならないものとして意識が変わってくる。

実際、南北統一が実現したら平壌冷麵どころではないということもわかっている。

離散家族たちの再開、核の処理、文化と言葉の壁、経済的な混乱…これらの課題が落ち着くのは何十年かかるだろうか。だからこそ、そこに楽しみを見つけていかないといけない。真のお父様とお母様の故郷はどんなところだろうか、村人たちはどんな人たちだろうか？定州に行ったらお父様がウナギを取った沼は、一日中飛び回った森はまだあるのだろうか。できることなら、開拓される前にこの目にしたいものである。

そういえばお父様の自叙伝に「冷凍ジャガイモそば」の話が出てくる。金日正主席と会った時に故郷の食べ物の話をする場面である。

「私は金主席が勧めるとおりに、「冷凍ジャガイモそば」に芥子菜のキムチをのせて食べました。香ばしいそばと辛いキムチがよく合い、おなかがすっきりしました。」(266p)

そうだ、統一後に食べてみたいものは平壌冷麺だけじゃないのだ。「冷凍ジャガイモそば」なるものも是非食べてみたい。金日成主席曰く、豆乳に混ぜて食べても美味しいが、ゴマのスープに混ぜて食べても美味しいらしい。芥子菜のキムチをのせて食べるのがポイントである。

有名な山にも行ってみたい。金剛山、白頭山…。統一後、※금강산도 식후경(クㇺガンサンド シックギョン)ツアーなんてできないだろうか。本物の金剛山を目の前にしてそのフレーズを言えたら、なんとなく伏線回収した気分である。いつかSNSでそんな動画をアップする人も出てきたりして。

　この調子でいくと、やりたいことが沢山出てくる。これは南北統一後に備えて準備をしなければなるまい。まずは、北朝鮮のことを知らなければならない。そして南北統一が必要であると認識を広めなければならない。もちろん祈祷と精誠を欠かさずに。

そして時が来たら、私は生涯記憶に残る「世紀の瞬間」を見届けるのである。

いつかおばあちゃんになったら「昔、隣の国は北と南に分かれていてねぇ」なんて昔話のように語りたい。

こんなふうに、南北統一にやりたいことを考えてみると結構ワクワクする。

「どうやって成すか？」も大事だが、「成されたらなにをしたいか？」を考えると、南北統一が夢物語ではなく、自分の人生に関わることであり、一気に現実味を帯びてくる。

南北統一されたら自分は何をしたいか…これを読んだあなたはどんな世界を思い描いただろうか？いつか機会があれば聞かせてほしい。

※「金剛山の景色も食後の話 」ということわざで、美しく朝鮮半島の人々の心を魅了する金剛山であっても、空腹ではその美しさが目に入らない、という意味。日本でいう「花より団子」。